

2015年3月4日 3月5日改訂 3月6日再訂 3月8日三訂 3月14日四訂 (3月15日微修正)、6月24日五訂

中国・ベトナムの漢文文献の中の南シナ海方面の記述について 補遺 10

嶋尾稔 (慶應義塾大学言語文化研究所)

江戸時代から明治時代にかけての日本における南シナ認識に関する情報を補足しておく。

1. マテオ・リッチの『坤輿万国全図』(1602)は江戸時代の日本にも将来され、宮城県図書館、京都大学図書館に完全な刊本が所蔵されている。いずれもウェブサイトで見ることが出来る。

<http://www.library.pref.miyagi.jp/eichi/eichi-cataloglib.html>

<http://edb.kulib.kyoto-u.ac.jp/exhibit/np/konyo.html>

マテオ・リッチのオリジナルの地図にはパラセル諸島・スプラトリー諸島は描かれていない。

また、宮城県図書館および東北大学附属図書館狩野文庫には、『坤輿万国全図』の写本が蔵されており、これらもサイトで見ることができる。

http://dbr.library.tohoku.ac.jp/infolib/user_contents/kano/ezu/kon/kon.html

これらの写本には彩色が施され、各国の国土が面的に色分けされている。ここで注目すべきは、南シナ海に「万里長沙」が描かれていることである。位置的にはスプラトリー諸島方面に当るが、南シナ海の空いた空間に適当に描いただけで、特に深い意味はあるまい。宮城県図書館の写本の図の形状は「想像上のパラセル」を模したものと思われる。東北大学附属図書館の写本は文字を点(島影?)で囲んでいる。先に「補遺3」(2014年12月2日三訂)において、17世紀前半の朱印船貿易家が用いていたポルトガル式の航海図に「想像上のパラセル」が描かれていたこと、18世紀後半の日本の知識人がそのタイプの地図に描かれた「想像上のパラセル」のそばに「万里石塘」「万里長沙」という書き込みを行ったことを指摘したが、それに加えて、『坤輿万国全図』の写本においてこのような改変がなされていることを見ると、南シナ海方面に「万里石塘」「万里長沙」なる小海区が存在しているという中国式の認識が江戸時代の日本の知識人のなかに一定程度流布していたことが確かに窺える(描き方は中国の図とまったく異なるが)。

2. 19世紀には、再びそのような中国的な認識ではない西洋的な南シナ海認識の影響が見られるようになる。国立公文書館デジタルアーカイブ (<https://www.digital.archives.go.jp/>) が公開している江戸時代の絵図のなかに『新訂万国全図』(1810)と『重訂万国全図』(1855)が含まれている。前者は、高橋影保らがイギリスのアーロン・アーロンズミス(父)の地図をもとにその他の情報も加えて作成した世界地図であり、後者は、山路諧孝らが前者を改定して作成したものである(前者については、「金田章裕「新訂万国全図」の編集過程をめぐって」金田

章裕・杉山正明・藤井譲治編『大地の肖像：絵図・地図が語る世界』京都：京都大学学術出版会、2007年）。南シナ海についてみると、『新訂万国全図』には、「プラセル」という地名と「想像上のパラセル」の姿が描かれている。縦長の囲みのなかにやや具象的な島影を散りばめたタイプの描写である。一方、『重訂万国全図』には、「パラセル諸島及暗礁」「アムピトリテ諸島」「マッコレスヒールドバンク」という地名とかなり正確な実際のパラセル諸島の姿が描かれている。『重訂万国全図』の資料となったゾル（K. Sohr）のアトラスについては、次のサイトが詳しい。<http://www.atlassen.info/atlassen/flemming/sohha.html> このサイトの掲載する画像を見ると確かに実際のパラセル諸島、マッコレスフィールドバンクが描かれている。「補遺7」（2014年11月24日三訂）において、1810年代～30年代が西欧の地図における南シナ海描写の移行期であり、「想像上のパラセル」が次第に消えて実際のパラセル諸島の姿が描かれるようになることを指摘したが、幕末の地図製作者たちが、そのような新しい動向をきちんと踏まえて、南シナ海の北側を正しく理解していたことが知られる（スプラトリー諸島方面の表現は粗雑なままであるが）。なお、『重訂万国全図』の編纂には江戸滞在中の佐渡の洋学者柴田収蔵が請われて参加している。幕末日本の知的状況を反映し世界地理認識の深化が一部の中央の知識人に限られないことが知られる。『重訂万国全図』は明治に入ってから（明治4年[1871]）大学南校が木版色刷で刊行している（筑波大学主催展覧会『古地図の世界とその版木』電子展示、<https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/exhibition/kochizu/denshi.html>）。なお、大学南校の改訂版をもとに明治7年（1874年）に民間の書肆が刊行した同名の地図は、売らんかなの粗悪品と見受けられ、サイズは縮小され表現も粗雑であり、パラセル方面の記述が一切省略されている（早稲田大学古典籍総合データベース）。

3. 講談社刊『日本古地図集成 世界図篇』所載地図中の南シナ海の記載について整理した（末尾表）ところ、江戸時代の世界図には、「想像上のパラセル」に「万里」という地名を併記するものがあることが知られた。「万里」が「万里長沙」あるいは「万里石塘」の省略形であることは容易に想像がつくが、むしろこの簡単な表現のほうが江戸時代初期の航海関係者のなかでは一般的であったのかもしれない。この推論を支持する資料として、『元和航海記』のなかのタイから日本までの水路誌（「シャムラウよりの乗前」）を挙げておきたい。

『元和航海記』は、ポルトガル人朱印船交易家であった「万能恵留権佐呂（マヌエルゴンサル）」から航海術を学んだ長崎の人池田好運が1618年に著した航海術書であり、ポルトガル・スペインの航海術書に基づきつつ独自の見解も示した稀有の著作である[新村 1985(1928)][藤田 1938][山田 2012]。原文を京都大学図書館のウェブサイトで見ることができる

(<http://edb.kulib.kyoto-u.ac.jp/exhibit/kichosearch/src/ippan236.html>)。そのなかに日本とマカオ、中部ベトナム、タイとの間の水路誌が含まれている。「シャムラウよりの乗前」に記載されたベトナム沿岸の目標物を列挙すると、下記の通りになる。

プルコダウルの島： Pulo Condor

マテウスビリー：Roche de Matheus de Brito. 16-18 世紀のポルトガルの航海書に頻出する (Manguin の著書の索引参照[Manguin 1972: 316])。19 世紀前半には岩礁ではなく現在と同じく堆として認識されている (Britto' s Bank[Horsburgh 1827: 265-266])。

マンリ (地のマンリ) : Holland' s Bank のことと思われる。

島・石 : Holland' s Bank の近傍の島と石といえ、Pulo Sissir de Mar (Pulo Cecir de Mer, **đảo Phú Quý**) とその近傍の岩礁 (海上保安庁の水路誌に Rocher Eleve として記載[海上保安庁 2011: 58]) のことかと思われるが、「地のマンリ」という表現は、Holland' s Bank の北西沿岸の小島 Pulo Sissir de Terra (Pulo Cecir de Terre, **Hòn Cau**) も連想させる。

マンリ (をき[沖]のマンリ) : 「想像上のパラセル」の南側が西に曲がっている部分のことであろう。

ニナウ島 : Manguin が仏訳紹介した 17 世紀初頭のポルトガルの航海書 (Vicente Rodrigues, ROTEIRO DE PORTUGAL PERA A INDIA) には、「Pulo Cesir de Mar の先に Niuco という名の別の島がある」と記されている[Manguin 1972: 142]。Manguin の注には同定できずと記されている。池田は 17 世紀のポルトガルの航海書に記されていた Niuco を”Ninao” と読み誤ったのではないか？

山 (をきのマンリの) : 不明。あるいは pulo Sapata か？

イクヲモ : 不明。ポルトガルの航海書には Comorim という地名 (カムラン湾を形成するカムラン半島を指す) が重要な目標地点として頻出する (Manguin の著書の索引参照[Manguin 1972: 315])。あるいはこれを指すのかも知れない。

ワンドウイクウモ : 不明。ワンドウは羅湾頭 (ファンラン湾) か？

バレイラ : **mũi Đại Lãnh** (ヴァレラ岬)。

小山 : 不明。**Hòn Nưa** か？

石の小山 : **Cù Lao Mái Nhà** か？

プルカビン : Pulo Cambim (Pulo Gambir, **Cù Lao Xanh**)

プルカタン (グハラウ) : Pulo Cantão (Pulo Canton, **Cù Lao Ré, đảo Lý Sơn**)

マンリ : 「想像上のパラセル」の南北方向に伸びる部分。「西風ふけばマンリに流さるるほどに、よく用心せよ」「グハラウをよく見ずば、マンリへをとさるべし」とあり、航路の東側の危険地帯として認識されていることは明らかである。

『元和航海記』が、航路上の目標物をかなり細かく記述していることが見て取れる。さて、ここで使用されている「マンリ」という語が、「万里」の音読みであることは明らかであろう。その指示対象は、「想像上のパラセル」だけでなく、Holland' s Bank も含んでいるようである。南シナ海方面の危険海域・要警戒海域を指すのに広く使われているようである。

古地図中に書き込まれた「万里」は、記述者が「万里長沙」「万里石塘」を縮めて書いたわけではなく、航海者の一般的な用法に従ったのではなかろうか。鎖国後、航海者の用法が伝わらなくなってから、漢籍の記載に従い「万里長沙」「万里石塘」と記述するようになったものでは

あるまいか。

4. 明治から第二次大戦までの期間に陸軍参謀本部・陸地測量部が日本領土以外の地図（「外邦図」）を機密に製作していたが、東北大学附属図書館/理学部地理学教室作成「外邦図デジタルアーカイブ」（<http://chiri.es.tohoku.ac.jp/~gaihozu/>）がその画像と書誌情報を公開している。それによると、明治31年（1898年）にパラセル諸島を対象とした地図（地域名：東亞與地図、記号：西五行南四段南部、図幅名：巴拉塞爾諸嶋、縮尺：1:1,000,000）が製図され、明治32年（1899）に製版、明治43年（1910年）に発行されている。残念ながら、この図の画像はウェブ上では公開されていない。

海上保安庁. 2008. 『海南島及近海』（海図）

海上保安庁. 2011. 『南シナ海・マラッカ海峡水路誌』 東京：日本水路協会.

新村出監修. 1985（1928）. 『海表叢書 卷3』 東京：成山堂書店.

藤田元春. 1938. 「元和航海記航路の研究」『日支交通の研究』 東京：富山房.

山田義裕. 2012. 「日本の航海術の書 池田好運著「元和航海記」（1618）」（<http://yamada-maritime.com/2ihngenna-japanese.pdf>）

Horsburgh, James. 1827. *India Directory, Volume second, third edition*. London:

Parbury, Allen & Co.

Pierre-Yves Manguin. 1972. *Les Portugais sur les Côtes du Viêt Nam et du Campa: Étude sur les routes maritimes et les relations commerciales d'après les sources portugaises (XVIe, XVIIe, XVIIIe siècles)*. Paris:EFEO.

附録

『日本古地図大成 世界編』（東京：講談社、1975年）所載古地図中の南シナ海記載一覧

図版番号	地図名	年次	表現	地名表記
16	世界三国記	江戸時代後期	文字を島々(?)で囲む	万里長砂
17	万国一覽図	1809年	想像上のパラセル	判読できず
29	大清歴代人物旧地全図	1858年	「黄千人図」系	萬里長沙、万里石塘
35	旧大陸図	江戸時代初期	想像上のパラセル	
38	世界図	1652年頃	想像上のパラセル	万里
40	世界図	江戸時代初期	想像上のパラセル	
44	万国絵図	江戸時代初期	想像上のパラセル	
45	航海古図	江戸時代初期	想像上のパラセル	
46	東洋諸国航海図	江戸時代初期	想像上のパラセル	
47	東亜航海図	江戸時代初期	想像上のパラセル	
48	東亜航海図	江戸時代初期	想像上のパラセル	万里
49	東亜航海図	江戸時代中期	想像上のパラセル	
50	小加呂多	江戸時代中期	想像上のパラセル	万里
51	東洋南洋航海古図	江戸時代中期	想像上のパラセル	萬里長沙
52	『波丹人絵巻』所載東亜航海図	1680年頃	想像上のパラセル	
53	南洋鍼路図	1598年	想像上のパラセル	
54	西洋鍼路図	1600年頃	想像上のパラセル	
57	坤輿万国全図写本(宮城県図書館)	江戸時代初期	想像上のパラセル	万里長砂
61	万国総図	1652年	想像上のパラセル?	
64	『本朝天文図解』所載地球之図	江戸時代中期	想像上のパラセル	
65	世界図	1698年頃	想像上のパラセル	萬里長砂
66	輿地図	1720年	想像上のパラセル	判読できず(カタカナ?)
67	地球一覽図	1783年	想像上のパラセル	万里長砂
68	地球万国山海輿地全図説	1788年	想像上のパラセル	万里石塘
69	坤輿全図	1802年	想像上のパラセル	万里長沙
77	世界四大州図	江戸時代後期	想像上のパラセル	萬里長砂
80	『北槎聞略』附録地球全図	1794年	想像上のパラセル	
81	『北槎聞略』附録亜細亜全図	1794年	想像上のパラセル&Les Lunettes	万里石塘、パラセル、ル子テス
83	円球万国地海全図	1802年	想像上のパラセル	万里長沙
87	新訂万国全図	1810年	想像上のパラセル	パラセル
89	新製輿地全図	1843年	実際のパラセルの簡略化?	パラセル
91	銅板万国方図	1846年	実際のパラセルの簡略化?	パラセル
94	校訂輿地方円図	1851年	実際のパラセルの簡略化?	パラセル
96	新訂地球万国方図	1852年	想像上のパラセル	パラセル
99	重訂万国全図	1855年	実際のパラセル	本文参照
107	万国地球全図	1850年	想像上のパラセル?	パラセル
120	万国地球分図	1856年	想像上のパラセル	パラセル